

「秋の東北鉄道旅行(7)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

奥羽本線は、東北本線の福島駅から、山形県・秋田県を經由して青森に至る、約 480km の延長を持つ路線だ。かつては、上野からの直通特急列車や寝台列車が数多く走っていた。現在は在来線特急はほとんどなく、わずかに青森～秋田間に「特急つがる」が1日3往復を残すのみとなった。



私は、新幹線の新青森駅から弘前駅へ特急に乗りたかったのだが、待ち時間が多かったので、先行する普通列車に乗った。4両編成ロングシートで、車内は東京郊外の電車とあまり変わらないものだった。



空席は多かったが、私は「鉄道好きの少年」のように、運転席の真後ろに「カメラ」と「絵の道具」を構えて陣取っていた。乗客は「また変な鉄オヤジがいるな」ぐらいに思っていただろう。



奥羽本線は全線電化されているが、単線区間が多い。駅や「信号所」の部分だけは複線なり、すれ違える。



津軽平野に出ると、広大な水田の中を走る。ちょうど収穫の時期で、稲が実った田んぼと、「刈田」が混在していて、美しい風景だった。



奥羽本線の津軽平野の区間では、右車窓に「岩木山」がよく見える。岩木山は標高 1625m の成層火山で、青森県の最高峰でもある。明治以降に噴火記録はない。太宰は「津軽富士」とも呼ばれるその山容を「十二単を拵げたようで、透き通るくらいに嬋娟たる美女」と書いている。私は運転席の後ろの、ちょっとした荷物台に画材を広げて、揺れる列車の中で急いで岩木山を描いた。途中駅で降りた地元の女性が「あれ、お岩木さんの絵だ！きれいだね」と言ってくれた。